

## 通販には膨大な選択肢▼検索に迷って深夜へ

欲しいものをインターネットで検索、気付けば何時間もたつていて、ぐったり。そんな経験はありませんか？ 福岡市の市場調査会社ジーコムがこのほど行ったネット調査では、ネット通販やSNS（会員制交流サイト）の急速な普及を背景に、68.1%の人が「ネット疲れを感じることがある」と回答していた。こうした「ネット疲れ」は特に女性に多い傾向があるのだという。

福岡市城南区の団体職員 増えていく。購入者の口コミにまで目を通していったら、いつの間にか深夜で、生活必需品の大半をネットですっかり寝不足になっていた。「菜をしようとネットショッピングを始めたのに『私、何やってるんだろう』って」

以前は大型商業施設で「半日かけて」買いそろえていたが、仕事の休憩時間や夜の空いた時間を使えるからと切り替えた。購入金額に応じてポイントがたまるとも魅力だった。

でも最近はいライラが募ることが多い。例えば子ども服では、サイズや種類を指定して検索しても、膨大な数が候補に上がる。同じ商品でも値段に差があるから「少しでもお得に」と検索を続けているうちに、実は欲しいサイズや色が完売していたり、送料が別料金だったり、確認することが

ジーコムが2017年夏、福岡県内の成人男女733人を対象にしたネット調査では「ネット疲れ、SNS疲れ、デジタル疲れを感じる」ことがあります。との問いに「よくある」「たまにある」と答えた人は計68.1%に上った。性別では男性（61.9%）より女性（73.3%）が多く、女

## 「ネット疲れ」女性の7割

性の年代別では40代が実に81%に達し、30代（76%）、50代（74.7%）が続いた。疲れを感じる層の83.2%は「思ったよりも長時間ネットを利用していることが多い」と答えた。自由回答では「情報が多すぎて、どれを選んでいいかわからない」「信ぴょう性を判断するのが難しい」といった意見が多かったという。

担当者は「最大の要因は、ネット通販などの情報の多さに、人間の処理能力が追いついていないこと。例

えは、実際の店舗では品売ろえにスペース上の限界があったが、ネットでは選択肢が無数。それが『便利さの中の不便』を生んでいる」と分析する。40代女性が特に疲れを感じているのは、子どもに関する連絡でSNSの利用が増えた影響もあるとみている。

実際、女性のネット通販の利用率は近年、急速に伸びているというデータもある。同社が、ネット通販を利用したことがある福岡県内の男女402人（20〜69歳）に尋ねた2017年調査（16年12月実施）では、年間利用回数は男性27.8回に対し女性29.5回。15年の同種調査の男性23.7回、女性18.5回から女性性が急伸し、男女が逆転する現象が起きていた。



便利なはずがストレス▼判断ルール決めよう

品ぞろえが6種類と24種類のジャムの試食コーナーで、試食した客が商品を購入した割合は、6種類の場合同じ商品で安い店があるかも!

匠教授は、よく知られている米国の実験結果を例に挙げ、「『売れ筋ランキング10位以内で検討する』などと自分でルール化して選択肢を10個以内で絞ると、判断しやすくなり、ネット利用の長時間化を防げる」とアドバイスする。「口コミもネットでは意見が極端になりやすいので、うのみにしないよう注意してほしい」と話している。（河津由紀子）